

## 研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-323
研究課題名 生活習慣・治療行動における行動変容とアトピー性皮膚炎患者の症状変化の検討
研究期間 西暦 2014年9月（倫理委員会承認後）～2014年11月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 診療録 <問診票、QOL 調査票、心理検査、血液検査結果を含む> ） 上記材料の採取期間 西暦 2011年1月1日～2013年12月31日
意義、目的 アトピー性皮膚炎治療は、薬物療法、スキンケア、悪化因子の除去が基本です。悪化因子は食物、物理的刺激、細菌・真菌、環境因子、ストレスなど多岐にわたりますが、各因子の重要性は患者さんの素因と生活の状況によって異なります。私たちは、アトピー性皮膚炎患者さんの生活習慣と治療行動を詳細に調査し、検出された問題点に関して改善を促すという取り組みを、外来診療における治療の一環として行ってきました。今回、この私たちの取り組みがアトピー性皮膚炎患者さんの治療に有用であったかどうかを検証します。
方法 2012年1月1日から2013年12月31日までの間に東北大学病院皮膚科外来に通院したアトピー性皮膚炎患者さんのうち、2012年と2013年の2回にわたり、生活習慣と治療行動に関する問診票調査を実施し、改善点についての指導を行った方の診療録を対象とします。診療録を基に、取り組み実施前後の臨床症状を比較し、取り組みが症状改善に寄与したかどうかを検証します。また、問診票の回答内容から取り組み実施後の生活習慣・治療行動における行動変容の有無を調べ、症状変化との関連性を検討します。なお、対象となる患者さんの情報は、氏名、生年月日、住所、電話番号といった個人を特定できるデータは取り除き、誰のものか分からない状態にして解析いたします。
問い合わせ・苦情等の窓口 この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせください。 <問い合わせ・連絡先> 東北大学医学系研究科皮膚科学分野 相場節也 小澤麻紀 住所：〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 電話：022-717-7271 ファックス：022-717-7361 メールアドレス：derma@med.tohoku.ac.jp